

仙台青年

SENDAI YMCA NEWS



YMCAのCAMP

「キャンプで養う
子どもたちの生きる力」

YMCAキャンプの目的

1. 自然生活を楽しみ、自然に適応する能力を身につける
2. 良い習慣を経験し、良い習慣を築く
3. 健康のための知識と経験を与え
4. 生活を豊かにする技術を学び、創造力を育む
5. 良き友人を作る方法を学び、お互いの存在と生命(いのち)を尊重する心を育む
6. 民主的なグループ経験から、社会に関わる責任感を育む
7. 神の恵みを知り、感謝の気持ちを養う

2020年から新型コロナウイルス感染拡大を受け、世界的に様々な行動規制がかかり、不自由な環境となりました。2023年5月8日をもって新型コロナウイルスが5類に移行となりましたが、この3年間は特に子どもたちや若者にとって、とても大切な時間が奪われました。

これからは、コロナ禍で出来なかった体験などをたくさんしてもらいたいと思っています。

さて、YMCAのキャンプでは生活を基本とし、さらに安全を最優先としたプログラムを行っています。その中ではグループでの活動が基本となります。

(第2面に続く)



仲間やリーダーと力を合わせて活動する”リアルな体験”に勝るものはありません。



その中でグループでの活動が基本となります。例えば、野外炊飯において試行錯誤をしたり、課題が見つかった時にどう改善するか考えたり、うまくいかなかったことから原因を見つけ出したりするなど、一人ではなく仲間やリーダーと一緒に同じ作業や体験を共有することに価値を置いています。さらに言えば、成功することが全てではなく、失敗したとしても成果にとらわれず、結果にいきつくまで仲間やリーダーたちどのように活動したかのプロセスを大切にしています。当然のことながら、共に活動する中で、全てがスムーズにいくはずもなく、お互い意見の食い違いもあるでしょうし、自分の意見を抑えることも、逆に自分の意見を押し切ることもあるでしょう。

コロナ禍の3年間で一気に進んだ

のがIT化ではないでしょうか。人と接触することや近づくことすら制限され、会話をするのは画面の中にいる先生や仲間という状況が一時日常となりました。そして、YoutubeやSNSの発達により、離れている人、普段出会えない人と、どこにいても繋がることができ、コロナ前よりも交流関係が一気に広がりました。そして、お互いの距離は関係なく、移動することなく気軽に画面を通して会えるようになりましたし、わからないことがあれば、ネットですぐにいろいろなことを調べられるようになりました。“手軽さ”が優先になってきているように感じます。

YMCAのキャンプは、1グループ6～8人ほどの小集団グループをつくり、大学生や専門学生のコースボランティアリーダーがそのグループを

担当します。グループを担当するリーダーは、子どもたちと共に生活し、活動し、同じ体験を共有することが役割となります。

キャンプでは、楽しいことも、嬉しいことも、辛いことも、全てが「生」の体験活動です。目の前にある課題を解決する時、もしかしたらSNSを駆使すれば難なく解決できるのかもしれませんが、でも、仲間やリーダーと知恵を出し合い力を合わせて解決する、その経験は子どもたちの成長の過程でとても大きな、価値のあるものとなります。課題を解決するため時間をかけること、どうしたらいいのか考える機会を増やすこと、そうしながら人との対話力や実行力を養っていきます。それが結果として生きる力を育むことになるのです。その機会が、YMCAが行うキャンプにはたくさんあります。

この夏もYMCAキャンプに参加する子どもたちと共に“生きる力”を養っていきます。

健康教育事業部：黒田 敦

連載

加藤 総主事の

『みつかる。つながる。
よくなっていく。』

第2回

「つながりをチカラに」



コロナ禍において注目された言葉に、レジリエンス (resilience) があります。回復力や立ち直る姿とも言われます。逆境に強い人は、困難に直面した時に前向きに考え、問題解決のために行動することができる。そういう人を“レジリエントな人”とも言うそうです。

人は誰もが強いわけではありません。しかし、小さな力でもたくさん集まれば大きな力になりえる。小さくて弱いからこそ、それを助けようとする大きな力が集まることもある。それを私たちは知っています。

4年ぶりに行われた仙台YMCAバザー。雨も降り心配されましたが、コロナの流行で数年間でできなかったことができた、ということだけでなく、参加者一人ひとりのつながりをより強めることができたということも、皆さんの笑顔から実感した一日でした。レジリエントだけにおわらない「今まで以上によくなっていく」(transform)。弱くても小さくてもつながるから強くなれる。いろいろな人とつながる力を持ちたいものです。

『貴重な経験と大切な思い出』 児玉 将樹 さん

僕は富沢児童館でボランティア活動をしています。

僕がボランティア活動をしようと思ったきっかけは知り合いの職員さんからの誘いでした。今まで経験したことがなく、不安の中でのスタートとなりましたが笑顔で話かけてくれる子どもたちや、わからない事を優しく丁寧に教えてくれる職員の皆さんのおかげで不安が楽しさへと変わっていきましました。ボランティア活動をしていく中でいろいろと貴重な経験をさせていただきました。



その中でも思い出に残っているのは夏のイベントです。イベントでは、子ども達の特技を見たり職員さんたちとショーをしました。子どものダンスやマジックやピアノ演奏は心の底から凄いなと思いました。職員さんとやったショーは夜遅くまで練習をして本番に挑みました。ショーを見る子どもたちのとても楽しそうにしている姿を見られたこと、職員さんたちとショーができたことは本当に良かったと思いました。富沢

児童館でのボランティア活動は貴重な経験と大切な思い出を与えてくださるとも素晴らしい環境です。これからもボランティア活動ができることに感謝し、子どもたちと一緒に成長できるよう活動をしていきたいと思ひます。

小佐野真菜美さん(ひかり組 小佐野 桐 さんのお母様)



YMCAと我が家の出会いは、長男 陸(小6)が加茂保育園に入園した2013年4月でした。あれから10年が経ち、陸、次男の權(小3)が卒園し、今は末娘の桐(ひかり組)が毎日元気に登園しています。

10年前というと、父親が単身赴任で平日は不在、じじばばに支えてもらいながら、母親の私が奮闘しなければ毎日が成り立ちませんでした。私も仕事が多忙で園とのコミュニケーションが取れず、連絡手段は小さな連絡ノートでした。子どもの様子や体調、子育ての悩みなど、いろいろ書き留めました。園からは、小さな変化も細かくノートに返していただき、直接の関わりが持てなくても、安心して預けることができました。

そして、陸がにじ組(年中)の2月、我が家に大事件が起きました。私の入院です。その日のうちに入院が決まり、急に母不在の日々が始まりました。小さな二人にはさびしい想いをさせていただきました。それでも毎日、園に元気に通うことができたのは、園が安心できる場所だったからで、今でも感謝の限りです。1カ月半の入院を経た退院日、病院から園に直行すると園長がワットと走ってきて「よかった～」と抱きしめてくれました。感謝の気持ちでもう胸がいっぱいになりました。

そして長男・次男が無事卒園し、今は末娘の桐がお世話になっています。

この末娘もいろいろあるんです(泣)。成長がゆっくりで友達についていくのもやっとなです、さらに人前で話をしない・黙ってしまう、そのため園で自分を発揮できずどうしたらよいの?と悩んで悲しくなることもありましました。そんな時は何度も何度も園で話をし、少しずつ前に進むことができます。我が家の宝3人の子どもたちは加茂こども園の方々を支えられ成長し、私たち親も一緒に成長してきました。今年度で娘は卒園になりますが、園で過ごした日々は子どもたちの心の根っこに必ずあると信じています。ありがとう、YMCA!

仙台YMCAの使命

私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願ひ、このわざを東北の地に広げるための活動を行います。

共に生きる社会をめざします。

私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。

喜びのある生き方をすすめます。

私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをとおし、共に成長できる生き方をすすめます。

世界平和の実現に努めます。

私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。

地球環境を大切にします。

私たちは、地球環境を守り、自然と人との共存をめざします。

ボランティアの働きを地域社会に拡げます。

私たちは、人と人とのかかわりを豊かに育み、隣人に伝えあう喜びの輪を拡げます。

子どもたちの生きる力を育てます。

私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊かでたくましい人間に育つよう支援します。

2023年 5月 4日～5月 6日に倉敷市自然の家で行われた全国リーダー研修に参加してきました。研修では、基調演習・ワークショップ・グループミーティング・グループ発表など様々なプログラムを行い、全国の仲間や講師の方から多くの刺激を受けました。特に3日間の研修を通して、「他者の意見を否定せずに肯定する」ことの大切さについて改めて考えることができました。研修中はグループ行動がメインとなり、互いにコミュニケーションを取りながら活動していく中で「相手の意見を否定しない」「肯定しながら、まずは挑戦してみる」ということを学びました。これらのことを意識しながら取り組んだ、グループ課題「理想とする社会」についてのグループミーティングと発表は、私にとってかけがえのない経験となりました。



仲間と何時間も意見交換を繰り返し、理想とする社会は「全ての子どもたちに居場所がある社会」という結論を出しました。これは、「障害児への差別・偏見」「不登校」「いじめ」「虐待」「自殺



など、社会への生きづらさを抱えている子どもたちが自分らしく成長する為には、居場所を作ることが必要だと考えたからです。そんな社会で、YMCAが子どもたちを受け入れて認めることで、子どもたちがありのままの自分を表現できる場所となり、それが居場所に繋がるのではないかと感じます。

意見交換の中で、皆が納得する結論を出すことができたのは、グループの誰一人として他者の意見に対して否定する人がいなかったからだと思います。誰かの意見を否定することは簡単なことですが、否定された側は自信を無くし、その後発言することが怖くなってしまおうでしょう。最初から否定するのではなく、どんな意見であってもそれは一人が考えた大切な意見と捉えることで、自然と相手を受け入れることができると思います。リーダーがこれらを意識して活動していくことで、YMCAが全ての子どもたちの居場所に繋がっていくことを望んでいます。

Column

石巻広域ワイズメンズクラブ 青木満里恵

東日本大震災発生から5年経った2016年5月26日に「石巻地域からYMCAの灯を消すな」を合言葉にクラブは誕生しました。震災直後よりボランティアセンターの活動拠点として全国からの支援者を受け入れてきましたが、その運営主体が東京YMCAから仙台YMCAに引き継がれました。そしてYMCAの諸活動を支援するために石巻広域ワイズメンズクラブは国際協会の認証を受けて誕生しました。以来7年間、YMCA石巻センターを拠点にして仙台的3クラブをはじめ全国のワイズメンズクラブの応援を得て仙台YMCAとともに震災支援活動や地域奉仕活動にあたり先月7周年の記念例会を持つことができました。東日本大震災から13年目に入り、復興事業の終結とともに最大被災地石巻広域圏の状況に居住人口の減少、主要産業である漁獲高の減少など、コロナ禍の影響もあって、新たに様々な問題や課題が生じています。ここで、クラブで現在進行中の主な2つのプログラムをご紹介します。

▼ YMCAお楽しみストレッチヨガ教室



仙台YMCA健康事業部の講師を招き、2ヶ月に1回、石巻復興団地の集会所でヨガ教室を開いています。復興団地内の引きこもりや新住民同士のより良いコミュニケーションを計るため2016年11月よりスタート、ヨガ終了後はお茶会で楽しんでいきます。通算34回開催中です。

▼ 3.11みんなの文庫の会開催



大震災を知らない子どもたちに震災をテーマにした絵本の読み聞かせをする「3.11子ども文庫」（現在、「3.11みんなの文庫」に改称）は、東京のリトミック教室の子どもたちともオンラインでつなぎ、音楽に合わせて体を動かすリトミックを取り入れたりして開催しています。通算21回開催中。

《 ワイズコーナー設置 》



ワイズメンズクラブがわかる！

YMCAとともに歩むワイズメンズクラブの活動を皆さまにより深く知っていただくために、ワイズコーナーを設置しました。第1回目は動画で分かるワイズメンズクラブです。QRコードからつながり下さい。今後、YMCAとワイズの協働プログラムや最新情報などを順次紹介してまいります。 <https://comeon.ye-east.or.jp/>

第29回
仙台YMCA
国際ナショナル・チャリティーラン2023

YMCA国際ナショナル・チャリティーランは、障がいのある子どもたちを支援するとともに、「障がい」への社会的な理解と関心を高めることを目的とした大会です。チャリティーランへの参加費やご寄附は、YMCAが全国で展開する「障害のある子どもたちの支援プログラム」に充てられます。現在、9月23日(土・祝)に実施する予定で準備を進めています。台風及び新型コロナウイルスの影響で、ここ4年実施出来ておりませんが、良いものを提供できればと考えております。詳細は決まり次第お知らせします。皆様のご参加をお待ちしています！

担当職員：佐竹 辰太郎